



送迎の実態と事務の状況を 把握するための調査

十一月二十七日(木)午後一時から、「福祉有償運送の実施に係る実地調査」が八幡事業所で行なわれました。北九州市の福祉有償運送を担当する保健福祉局地域共生社会推進部地域福祉推進課より、平田係長と後藤主任が来所されました。

この実地調査は、毎年この時期に行なわれており、行政と北九州市福祉有償運送運営協議会が各事業所の送迎の実態を把握するための調査です。

今年は八幡事業所で行なわれませんでした。
感染症の予防をしながら行われました。
送迎時の事故や

苦情の対応の確認を

初めに、平田係長と後藤主任より「活動報告書及び車両点検表」の確認や、運転ボランティアさんに対する点呼の方法、車両の運転前の点検方法などを確認していただきました。



事務局より年末年始のお知らせ
12月29日(月)から

1月4日(日)まで

お休みします

ボランティアさん及び利用者の方には
個別でお知らせいたします

続いて、最新の運転者名簿や自動車登録簿、利用者名簿、利用料金一覧表、領収証などの必要書類がきちんと揃っているのかを確認されていきました。

時に必要なアルコールチェッカーの確認や送迎時の車に「福祉有償運送」のマグネットステッカーが貼っているのかなどを確認されていきました。

自分らしく生きるために

十二月三日から九日まで障害者週間

十二月六日(土)十一時から、JR小倉駅で、障害者週間(十二月三日から九日)に合わせて「障害のある人への理解を深める啓発イベント」が行われました。「さわやか」から高原、貞谷が参加しました。

障害者週間とは、日本国民の間に広く障害者の福祉についての関心と理解を深めるとともに、障害者が社会や経済、文化その他あらゆる分野の活動に積極的に

参加する意欲を高めることを目的とし、一九九五年六月二十七日に、当時の総理府(現内閣府)障害者施策推進本部により十二月三日から九日までの一週間と定

農福連携マルシェとは

農業と福祉が連携して生産した農産物や加工品を販売するイベントです。

障害のある方の就労支援や賃金向上、農業分野での人手不足解消などを目的として、全国各地で開催されています。

農福連携の目的

農福連携は、農業と福祉それぞれの課題解決を目指しています。福祉側…障害のある方が農業生産活動に従事することで、働く場所の確保、賃金向上、心身機能の回復を図ります。

農業側…農業労働力の確保や農地の有効活用を通じて、地域農業の維持に貢献します。

められました。

これは国際障害者デーであり、また障害者基本法の公布日でもある十二月三日を起点とし、障害者の日である十二月九日までの一週間と定めたものです。

二〇〇四年の障害者基本法改正により、十二月三日から九日を障害者週間とする旨が法律に明記されました。

今年も、北九州市と北九州市障害福祉団体連絡協議会(以下障団連)主催の障害者週間街頭キャンペーンは、新型コロナウイルス感染症予防に留意しながら開催されました。

そこで、障団連の啓発部会の活動として、福岡県福祉労働部障がい福祉課主催の農福連携促進事業のイベント「農福連携マルシェIN北九州」のブース内で、



障害への関心と理解を深め、障害のある人が社会や文化などあらゆる分野の活動に参加することを推進するために啓発イベントを行いました。

今年も『自分らしく生きるために』を合言葉にポケットティッシュを配りながら啓発活動を行いました。

また、時間の余裕がある方には、障害に関する啓発クイズを用紙で参加してもらいました。

啓発クイズに参加された方には、市から提供されたグッズを配布されました。

(裏面へつづく)



Dr. 江頭眞紀子氏による

「とっておきのお話し」

好評につき「とっておきのお話し」を公益財団法人健和会 健和会京町病院の医師であり、「かわやか」の名誉顧問でもある江頭眞紀子先生に執筆していただきましたのでご紹介します。

ブロントザウルスの復活

公益財団法人健和会 健和会京町病院

医師 江頭 眞紀子

若い古生物学者が書いた恐竜の本を読みました。恐竜の発掘や足跡化石の追及についての苦労話です。ブロントザウルスという名が出てきました。おや、ブロントザウルスは正式な名前ではなくなったのじゃないかなあ。科学雑誌「ニュートン」の、ちよつと前の恐竜特集では、「アパトザウルス（かつてはブロントザウルスと呼ばれた）」と書いてあったのですが。

地球上のすべての生き物（身近な動物だけでなく、バクテリアなどの微生物にいたるまで）には学名というものがあります。ラテン語で、人類はホモ・サピエンス、オオカミはカニス・ルプス、ペットの犬はカニス・ルプス・ファミリアリス、猫はフェリス・シルヴェス

（表面よりつづき）

また、JR小倉駅の大型ビジョンに「障団連の動画」のスポットCM（十五秒）が流れました。

そして、北九州市が人権啓発として取り組んでいる人権の約束事運動「ほっとハート北九州」のマスコミトキヤラクターモモマルくんも応援に駆けつけてくれました。

今回も、十

時から十六時までという長丁場で、動員のスケジュールを組み、イベントの参加者を配置するなど、活動する側も効率よく効果的に啓発活動ができました。啓発活動は、十六時に終了しました。



トリスという具合に。各分野で新種の生物を発見した人は、それぞれの国際学会に論文を提出します。発見者はその生物に名前をつける権利があります。ところがそれが、すでに他の人が発見し報告した生物であった場合は、先に報告した人に優先権があり、そちらの名前が正式な学名とされます。

ブロントザウルスは、イエール大学のオスニエル・チャールズ・マーシュという人が十九世紀にアメリカ西部で発見し、その巨大さ、長い首をもった独特の姿から恐竜の代表の一つとされ、切手の図柄に使われ、誰もが知るようになりました。しかしその後学会では種々の議論が巻き起こり、マーシュが以前に発見しアパトザウルスと名づけたやや小さな恐竜が、ブロントザウルス

の若い個体であり、同じ生物ではないかと。このことは一九九五年に国際動物命名審議会で定められ、先に命名されたアパトザウルスがこの動物の正式な学名ということになったのです。この場合命名者は同じ人でしたけどね。



古生物学者で科学エッセイストの、ステイヴン・J・グールドさんが嘆いていました。アパトザウルスは詐欺師トカゲというような意味で、ブロントザウルスはカミナリ竜という意味。先取権などにこだわって、映画やアニメにも登場し、子供たちがよく知っているブロントザウルスという名前、その偉大な生き物にふさわしい名前をボツにするとは。そしていつかカミナリ竜がよみがえってきますようにと、「がんばれブロント

ザウルス」と題したエッセイを結んでいます。

十九世紀後半、マーシュはフィラデルフィアのエドワード・ドリンカー・コープという研究者と、西部の荒野で熾烈（しれつ）な恐竜発掘競争を繰り広げました。論文上での罵り合いにとどまらず、作業員同士の暴力沙汰や、相手の発掘現場の破壊など、なんでもありだったとか。二人とも、化石の一部を掘り出しただけなのに命名して論文を発表したり、別の化石の一部をくつつけたりもしたそうです。

インターネットを見たら、最近の研究でアパトザウルスとブロントザウルスは別の生き物であるということになり、ブロントザウルスの名が復活したということです。

よかったねグールドさん（もう亡くなっちゃったけど）。

がんばれカミナリ竜！

文献…ステイヴ・ブルサツ「恐竜の世界史」、みずさ書房

ステイヴン・J。グールド「がんばれカミナリ竜…進化生物学と去りゆく生きものたち」、ハヤカワ書房